

令和2年3月12日

令和元年度 自己点検・評価報告書

学校法人中村学園
 専門学校静岡電子情報カレッジ
 自己点検・学校評価推進室

公益社団法人静岡県職業教育振興会による「静岡県版ガイドライン」をベースにして本学独自の自己点検・評価を実施しました。なお、下記の一部の項目についてはすでに改善のための方策を実施しております。

1. 教育理念・目標	
【現状と問題点】	<p><建学の精神、校訓、教育方針の徹底></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を根本の理念とし、挨拶を基調とした「全人教育」を徹底。 ・本学オフィシャルウェブサイト、ホームルーム・教員室に「建学の精神」「校訓」を掲示。また各学科の教育方針を当該クラスの掲示板に明示している。 ・学科・部署ごとの自己点検・評価についてはPCDAに合致した様式でまとめることができている。 ・Society 5.0が矢継ぎ早に具現化される時代。そこで求められる人材養成のため、年2回の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を実施。その内容を教育に反映している。 <p><教育理念の具現化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学生に「笑顔」で明るい挨拶ができるよう、継続して学生指導を徹底しているが、一部学生、特に留学生については十分な挨拶ができない場面がみられた。 ・入学前事前指導（ステップアップレッスン）、新入学生オリエンテーション、理事長・校長からの訓話、年度初めの宿泊訓練を通じて、本学のアドミッションポリシー・教育方針の理解、目的意識の向上を促しているが、年度を通じて指導を徹底したい。就職活動での差異化にもつながること。 ・「学生の手引き」について見直しを図った。
【改善のための方策】	<p><建学の精神、校訓、教育方針の徹底></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神、校訓、教育方針のなかで、特に重要なキーワードについては頻繁に学生の理解を確認し、教育課程に反映できるようにする。そのためにもワークシートを用意し、文章で表現させることを繰り返し行う。 <p><教育理念の具現化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業団体、企業との連携による本学ならではの職業人育成で当該分野への人材輩出を続けていく。 ・CANスカラシップ制度を実践的に運用する。従来の特別奨学生の恩典を受けている学生と共に、学科、学校のリーダーとして産学連携、他学科とのコラボレートなど、先導的な活動をさせる。教員一人ひとりに担当学生を決め、教員の片腕となれるように責任をもって指導する。研究活動成果は企業にとってメリットとなり得るレベル・内容を目指す。また、その成

	<p>果を広報面でも活用する。この活動のための専用スペースも学内に用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育成果、ポートフォリオの見える化等、チェック体制を整え、学生自身が自らの学びを振り返ることができるようにする。その内容を就職活動にも活かす。 ・引き続き文部科学省委託事業に参画し、社会人学び直し、中核的人材育成、eラーニングについて研究・開発を推進する。 ・教員自身が学生指導指針である「学生の手引き」を十分理解した上で教育活動を行う。 ・教育内容の一層の見える化を図るため、Web への情報掲載がより効果的になるよう継続して研究する。 ・全学生が、自ら気持ちの良い挨拶ができるように、今一度全人教育の基本に戻り学生指導をしていきたい。 ・留学生に関しては日本語能力の向上にも繋がるので、学内においては母国語を使用せず、日本語でコミュニケーションをとるよう指導する。日本人学生及び教職員とコミュニケーションを取る機会を定期的に作り、文化交流、友好の絆を深める。
<p>2. 教育活動</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<p><教育課程の編成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会を年度内2回実施。実務で求められるスキル、人間力、各業界の動向に合わせ、学科・コース別に教育課程へのアドバイスを頂き、教育活動全般に反映している。 ・シラバス、コマシラバス、教材についての電子化を引き続き推進。過去の教材もそのまま蓄積され、学生が課外で活用するなど、メリットが増えている。 <p><留学生への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期から留学生を中心に3分間スピーチなどに取り組んだが、これを年度通して行うことで「考えをまとめ」「話す」力を養成する。 <p><産学連携教育プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入学生のための基調講演を実施。令和元年4月5日(金)、株式会社システムソフィア取締役・管理部長である五十嵐卓氏(本学学校関係者評価委員)から、新入学生に向けてICT企業マネージャーの立場から講演頂いた。ICT設計・開発分野に限定することなく企業や社会が求める人材像について、また仕事の意義・やりがいについて分かりやすく解説され、新入学生にとって大変有意義な機会となった。 ・ラジオ局76.9FM-Hi!の見学・研修を6月3日(月)実施。静岡市内を放送エリアとするローカルFMラジオ局、76.9FM-Hiを音響&映像メディアクリエイト学科1年生3名が訪問。局内の見学と実際に番組のオンエアに立ち合わせて頂き、緊張する中、生放送が行われる様子を目の当たりにすることができた。 ・本学園理事からのご紹介により、令和元年8月24日(土)、25日(日)、2日間にわたって青葉シンボルロードで開催された「タイフェスティバル in 静岡」(静岡日タイ協会主催)の舞台音響を本学教員2名と音響&映像

	<p>メディアクリエイト学科学生2名で担当。民族舞踊、バンドライブ演奏、トークイベントと、様々なイベントに対応して音響の準備・運営・撤収を体験でき、学生たちにとってこの上ない貴重な現場経験となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年9月6日(金)、静岡市内にあるIT開発企業、株式会社システムソフィアをITゲーム&ロボットシステム学科学生7名が訪問。会社説明に続いて、卒業生社員との情報交換、先輩からのアドバイスを頂いた。別の卒業生社員のご指導の下、IoT デバイスを使ったプログラミング実習も体験させて頂いた。社内も回らせて頂き。車載機器の開発の様子を見学することもできた。 留學生も含め、学生たちは研修目的を企業人にアピールしたり、積極的に質問したり、大きな成果をあげることができた。 ・昨年度のテレビCM制作に引き続き、今年度も産学連携によるCM制作活動を行った。連携先は日本平動物園。夏から企画・絵コンテ制作を開始、10月から日本平動物園と打ち合わせさせて頂き、内容を決定。再三にわたるロケハン、ロケにより、CM作品を完成させ、動物園側にプレゼンテーションすることができた。 ・学生たちによるライブ企画・制作も2年連続で実現できた。「音楽イベントで地元静岡を盛り上げよう」というテーマで、イベント制作のプロのご指導の下、バンド募集活動から開始。イベントポスター、フライヤー、チケットをオリジナルでデザイン制作。またバンド募集、イベント開催についての告知を行うため、SBS ラジオ、K-MIX、FM 島田、FM しずおかと4局のラジオ番組に出演させて頂くこともできた。同時に局内の見学もさせて頂いた。ライブハウス「LIVE ROXY」で11月30日(土)にイベントを開催。全7バンドが出演。音響は東京からプロを招聘して担当頂くと共に、学生たちの指導も仰いだ。ライブ内で背景に流す動画も学生が制作。また当日の様子は動画としてまとめ、卒業研究発表会で披露することができた。学生たちはかけがえのない貴重な経験を通して成長することができた。 ・学生と企画広報室との連携で、姉妹校静岡福祉医療専門学校の授業を紹介するビデオ制作を行った。授業風景の撮影と動画編集でコンテンツを完成させ、今後YouTubeの本学公式チャンネルで公開していく。 ・学生が企画し、学校近隣のレストランや食事処をPRする「ぐるめマップ」を制作した。関連店舗とのアポイントメントや取材等を通じ、学生たちはデザインスキルのみならず、コミュニケーション能力を高めることができた。 <p><社会人基礎力の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングについては、人前で話せる学生が増えたと感じた。今後もグループワーク等を通じて積極的に行っていきたい。 ・文章表現させる機会がまだまだ不足している。特にポートフォリオを文章で記録、まとめさせることが肝要である。語彙を増やし、文章表現力を高めさせる。 ・18歳から選挙権が与えられていることを鑑みて、学生に選挙や政治についての関心を持たせるための授業を行った。 <p><教育活動></p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・プロゼミ、ゼミナール科目において、今年度も毎週固定された時間帯に企業人の指導を導入。調査・分析から企画・スケジュールリングの手法、進捗状況確認や研究・開発、制作への具体的なアドバイスを頂くなど、学生にとっては極めて貴重な学びの場となっている。 ・地元企業人を招いて卒業研究・ゼミナール成果発表会を開催。2年生は学びの集大成として、1年生はゼミナール活動の成果発表として取り組み、プロの方々から何れも高い評価を頂くことができた。
<p>【改善のための方策】</p>	<p><産学連携教育プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携教育プログラムで企業とのコラボレーション研究・制作活動等については、学生たちに目的を十分理解させ、自らの言葉で相手に説明できるよう、引き続き事前指導を強化する。 ・企業案件に対しては、学習効果、対応、連携先の選択、連携方法、スケジュール管理について教員間の情報共有を密に行う。 ・様々な団体が実施するコンクールやコンテスト、文部科学省委託事業のイベント等、学生が大きく成長できる機会に積極的に参加する。学生指導上、スケジュール管理、モチベーションの維持に重点を置く。 <p><教育課程の編成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該分野で活躍する卒業生や企業人との連携を深めるため、情報交換イベントや勉強会を企画、実施する。 ・Web上で実施している授業アンケートを見直す。 <p><社会人基礎力の養成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一段と変化の激しい当該業界で働くにあたり、「自信を持って」「自ら考え行動でき」「障壁を自力で乗り越え」「新たな付加価値を生み出す」力の養成に注力する。 ・様々なグループワークや産学連携の実習などを増やし、人前で話す場面を増やしていく。 <p><教育活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオをアナログ、デジタル両面からまとめられるよう体制づくりを行う。書式・様式の作成、学生自らが書いてまとめる機会の提供。同時にポートフォリオをデジタル化してまとめるスキルも身に付けさせる。 ・共有サーバやWebサイトを用いて、いつでも学生が確認できる環境を整える。
<p>3. 学生受入れ</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<p><留学生関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の日本語学校との連携を継続。留学生卒業後の日本語教育について情報交換している。 ・IT系学生が急増。留学生も5か国から迎えることになる。 <p><高等学校等の連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人静岡県職業教育振興会主催による高等学校での職業体験授業を実施。Unityによるゲーム開発プログラミング体験、ストップモーションアニメーション制作の体験を行い、生徒たちはそれぞれの専門的職業のイメージを明確にすることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生 ICT カンファレンスを開催。総務省、SNS 事業者、メディアリテラシー研究団体も参画してグループワーク、プレゼンテーション、その評価を行い、一定の成果が得られた。 <p><生涯学習関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人静岡県職業教育振興会の職業体験イベントに参加、ゲームプログラミング、映像や音でクリエイティブな体験をするなど、多数の来場者でにぎわった。 ・県委託事業である離職者訓練「オフィス PC 中級科」を受託、令和元年 12 月 5 日開講、令和 2 年 3 月 4 日（水）修了。IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等の先端技術にも講義で触れたうえで、Web デザイン、表計算処理、文書作成処理、プレゼンテーション処理の 4 分野のスキルアップを図ることができた。また就職活動の支援も十分に行えた。 ・NPO 法人静岡情報産業協会との共催により、小学生プログラミング教室開催を令和元年 12 月 21 日（土）に本学で開催。受講者アンケートより、とても楽しく学べたことがわかった。 ・NPO 法人静岡情報産業協会との連携で企画した RPA 講座は受講希望者が少なく開講に至らなかったが、RPA の重要性、可能性について理解を深める機会となった。 <p><学生募集関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果発表などで使用した動画の提供や公開講座、オープンキャンパスなどのイベントについて、教育部から企画広報室へ積極的に提案・協力をした。 ・オフィシャルサイトをリニューアルした。同時に YouTube チャンネルのコンテンツも増やし、徐々にではあるが、外部の方に魅力が伝わるようになってきている。 ・オープンキャンパスにプロを招聘、その分野における仕事の魅力、面白さを伝えてもらった。
<p>【改善のための方策】</p>	<p><生涯学習関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人 静岡県職業教育振興会主催の職業体験イベントに継続的に参画する。 <p><学生募集関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学科編成の完成年度に向けて、各学科、研究分野における目標、シラバス、教育内容の整備を行い、対外的に情報公開する。 ・オープンキャンパスに卒業生も加えてプロと来校者が交流できる機会を増やす。仕事の内容や将来的なキャリアについて、魅力を伝えてもらう。 <p><高等学校等との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度も高校生 ICT カンファレンスを誘致する。参加校数、参加者数を増やすため、今年度の活動の成果も含め、高等学校への告知・協力依頼を早期から実施する。 <p><留学生関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生が本学入学後に対する指導が課題となっている。ステップアップレッスンに加え、留学生をターゲットにした専門技術、用語、日本語力のフォローアップ、生活指導について入学前から指導を徹底する。また、日

	<p>本語学校と連携し、入学を希望する前の段階から、興味のある分野について日本語の学習がスタートできるよう、機会を設ける。</p>
<p>4. 教職員組織</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<p><専任教員の研修等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も専任教員について、企業との連携による研修を実施。イベント現場での実践的な研修、プロのクリエイター指導の下でのCG制作実践的技術修得などが行え、教員のレベルアップが図れたとともに、実務で求められるスキル、最新の技術動向についても熟知することができた。 8月26日(月)、Blenderによる3DCGアニメーション制作研修。 ・文部科学省委託事業参画や産業団体との交流で教員自身が企業や県外・遠方の専門学校とネットワークを構築でき、最新の情報が入手できている。また新たな制度についても迅速に対応できている。 ・(一財)職業教育・キャリア教育財団主催 中堅教員研修「学校の経営(SWOT分析を中心として)」 令和元年8月1日(木)、8月2日(金) ・(一財)職業教育・キャリア教育財団主催 中堅教員研修「教員のキャリアデザインワークショップ(これからの専修学校を担う自立型教員研修)」令和元年8月28日(水)～30日(金) ・NPO法人静岡情報産業協会主催 「5G時代に向けたドコモの取り組みと目指す世界」 <p><公益社団法人静岡県職業教育振興会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人静岡県職業教育振興会への理事、研修委員として参画。 <p><文部科学省委託事業></p> <p>(1) 2019年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」 eラーニングの積極活用等による学び直し講座開設 (代表機関：学校法人フジ学園 専門学校ITカレッジ沖縄)</p> <p>(2) 2019年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 ゲーム・CG分野産学官連携人材育成体制の構築 (代表機関：一般社団法人Japan Entertainment 開発協会)</p> <p><(一社)全国専門学校情報教育協会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修委員会 研修委員としての参画 <p><NPO法人静岡情報産業協会との連携、参画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成・教育研修部会 ・人材開拓推進部会 ・専門高等学校との情報交換、地元IT企業の人材ニーズや業界のトピックス、技術研修、子ども向けプログラミング教室を本学に誘致するなどの機会を得ることができた。 <p><外部セミナー、研修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県 「静岡県労働法セミナー ～労働法制の基礎～」 ・厚生労働省 「労働契約等解説セミナー 2019」 ・日本経済新聞社名古屋支社 「人生100年時代の人材セミナー ～副業・兼業の時代におけるキャリアの棚卸しを考える～」 ・(一財)総合福祉研究会 「社会福祉会計簿記『入門講座』」 <p><非常勤講師></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師による教育を拡充。一部科目については学生たちが積極的に選択し、専門分野にプラスアルファのスキルアップにつなげることができた。
<p>【改善のための方策】</p>	<p><教職員組織></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科単位で教員間の定期的な情報交換を確実にし、その内容の見える化を図る。 <p><職業実践専門課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学大臣認定の職業実践専門課程としての責務を負い、また専門職大学・専門職短期大学も視野に入れながら、地域のニーズに合致した職業教育を行う。教員自身も関連企業、企業団体、文部科学省委託事業、関係諸団体と連携することで、教員自ら現場の状況、ニーズを把握する。また、教育力、専門性の両面について、各学科の特性に合わせ、計画性をもった研修計画と実施、そのまとめと学内での研修・情報共有を行う。 <p><公益社団法人静岡県職業教育振興会との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人静岡県職業教育振興会を活用し、本学が求めるニーズに合致した研修（留学生対応、教員の教育力向上等）の実現と受講を目指す。 <p><NPO 法人静岡情報産業協会との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産業団体等との連携で、留学生のインターンシップや短期研修、就職受け入れ先の開拓を行う。
<p>5. 施設・設備等</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<p><設備関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生数が増えたことから一部 Wi-Fi 接続が不安定になったため、昨年に引き続き無線 LAN 親機を増強した。他にも Wi-Fi 接続の改善を図るべき教室がある。 ・新規プロジェクタを導入。解像度や輝度を向上させることができ、より効果的な教材提示が可能となった。 ・音響系学生が更に増えたため、マイクロフォン、ケーブル等を充実させ、整備。十分な対応が行えた。 ・離職者訓練に向けてパソコン実習室を整備。Windows7、Windows8 のマシンを何れも Windows10 に、また Office2019 に更新した。受講生は最新の実習環境で3か月間講座を受講することができた。 ・昨年度増強した照明装置を活用して、学園祭ライブイベントを盛り上げることができた。 <p><施設関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室のスペースの都合で大型のロッカー等を設置できない場所についてはコンテナボックスを導入して整頓した。 <p><IT システム関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフィシャルウェブサイトを改編したことに対応し、システム内容を分析。迅速な更新、的確な情報発信ができるよう態勢を整えた。 ・パソコン実習室のコンピュータが授業中にアップデート開始になる、ネットワークが切断されるなどし、授業を中断せざるを得ないこともあった。実習室において、定期的な環境整備に努めたい。 ・相変わらず DHCP 設定のまま利用するケースがあり、IP アドレスの重複

	<p>が発生、接続できないことがあった。これに対しては IP アドレスを整理し直し、かつ、IP アドレスから MAC アドレスを調べる外部コマンドの導入したことで、より迅速に対応・復旧できるようになった。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p><設備関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットシステム研究の学生増に備え、工作機器や工具等を整備する。また、3D プリンターの市場が拡大し、より高性能でコストパフォーマンスの高い機種が投入されていることから、ロボット製作のための主たるツールとして、新規ハードウェアの導入を研究する。 ・ライブハウスや舞台がイメージできるよう、照明機器やスモークマシン等の設備を学内に導入研究する。 ・ライブハウスやホールなど、音響のデジタル化が一層進展。音響機器のデジタル化対応、並びにネットワーク技術教育について、引き続き研究する。 <p><施設関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のような突発的・長期化する感染症にも対応できるように、対策として、手指消毒液、マスク等、これまでの災害時用の保存水、乾パン、簡易トイレ等以外にも備蓄物等を検討していきたい。 <p><IT システム関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、パソコン実習室における環境整備をするよう努めたい。 ・MAC アドレスをデータベース化して、IP アドレスの重複時の迅速な対応を行えるようにする。 ・VLAN 等、2つのキャンパスを繋ぐネットワーク・システムについての研究を継続する。
<p>6. 学生生活支援</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<p><経済的支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生、新入生とも高等教育修学支援制度に該当する学生に対する指導を行えるよう、制度の詳細を教員が十分理解した。在校生への対応を進めている。 ・本学独自の奨学金制度について、制度内容やそのシステム等、学生募集の段階から紹介するとともに、入学後も対象となる学生には引き続き指導している。また日本学生支援機構等、公的な奨学金制度については専任を設け、入学後速やかに希望学生を対象に説明会を実施。進級・卒業後も適切な指導を行い、スムーズに手続きが進められるようにしている。 <p><学生生活支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間割、教材費の事前連絡などはスケジュール通り行うことができた。 ・学生会を組織。学園祭・文化祭（学校関係者のみでの実施）、スポーツ大会、町内清掃活動、謝恩会（今年度は開催を断念）等の企画・運営、管理を通じて学生相互の絆を深めている。 ・定期的に個人面談を行うことで、学業や学生生活上の悩みを早めに察知できるようにしている。また長期休暇前後には学生の生活面、健康面のチェックを行い、全校的に状況の取りまとめ、把握をしている。残念ながら家庭環境の影響で体調を崩し、遅刻欠席、早退が増える学生がいる。 ・SNS でのコミュニケーションに頼ってしまうケースが増えてきている。

	<p>メッセージさえ送ればよい、という考え方に傾かないような指導が重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24 時間対応保険及び正課中を対象とした保険に加入して、万が一の場合に対処可能としている。 ・年に1度、健康診断を実施。 ・感染症（インフルエンザ）に対しては、日頃から衛生面の対応、健康管理について指導を徹底している。また罹患した際の登校許可についてはルールを改正した。 ・関連業種のアルバイト情報等を学生に伝えている。 <p><専門分野に関する支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後や授業のない日も積極的に学習・実習・活動する学生の姿が一段と増えている。音響系学生の活動で音がうるさくなることもあり、他の学科に迷惑をかけることがあった。 ・「卒業生を囲む会」を令和元年4月26日（木）開催。ICT分野、エンターテインメント分野のプロフェッショナルとして活躍する本学卒業生4名が来校。現役学生たちに貴重な体験談を語ってくれた。全体会に続いて分科会形式で学生たちと質疑応答・情報交換を行ったため、内容が濃く、熱心な質疑応答も行われ、学生たちにとって有用な情報を得ることができた。教員とも情報交換を行い、業界のニーズ、卒業生が今抱えている問題点、母校への提言などを得て、その成果をカリキュラム、授業、実習・演習、就職指導に今後活かしていく。 ・劇団四季「エビータ」公演を観劇。映像・音響分野を目指す学生たちが日本最高峰の演劇を目の当たりにすることで、演出効果、舞台照明・音響装置等、多岐に亘って直接的に学ぶことに加え、心を豊かにし、日頃のストレス解消にもつながっている。 ・進級、卒業の要件である検定のポイントが年度末まで不足する学生がみられた。計画的に受験させ、早期にクリアできるよう指導する。また検定試験によっては検定対策を放課後実施するなど、徹底した支援を行わなければならない。 <p><進路活動支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業側提案の「学内企業説明・選考会」を、学生から希望のあった8企業について実施。 ・「面接指導」において、前年度末に作成した「ジョブ・カード」を面接官の手元資料として活用。 ・業界団体主催の就活イベント等の情報を迅速に学生に周知した。 <p><留学生支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生のために空き時間を利用して日本語検定対策を実施した。残念ながらN2合格レベルには到達できなかった。日本語の物語など、読み物も十分用意したが、あまり活用されなかった。 <p><資格・検定試験の学内での実施></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会人常識マナー検定 公益社団法人全国経理教育協会主催 (2) 映像音響処理技術者試験 (一社) 日本ポストプロダクション協会主催 (3) ビジネス能力検定 B検ジョブパス (一財) 職業教育・キャリア教
--	---

	<p>育財団主催 (4) 情報検定 (J 検) (一財) 職業教育・キャリア教育財団 主催 (5) サーティファイ Word 文書処理技能認定試験 (6) サーティファイ Excel 表計算処理技能認定試験</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p><進路活動支援> ・雇用環境の変化への対応：採用活動の早期化、景気局面の変化に加え、新型コロナウイルスの拡大に伴う就活イベントの延期・中止などで、就活スケジュールは不透明さが増し、また、採用方法の多様化にも拍車がかかっている。これらに関して情報収集の上、学生に周知し、学生の自主的活動を喚起する。 ・学生の「二極化」への対応：学業の進捗に伴って「志望分野を焦点化 → 企業探索やインターンなど参加 → エントリー・受験」と自主的に活動する学生と、そうでない者がいる。学科と連携した対応を行う。 ・来校企業などに「留学生採用」の有無、採用要件などを確認する。 ・「ジョブ・カード」活用の一層の推進：「ジョブ・カード」作成を「経験学習サイクル」の一環として活用する。 ・「ワークルール」に関する知識や「キャリア・コンサルティング」スキルの向上を目指した研鑽の実施：その成果を、学生指導だけでなく、「離職者訓練」における担当でも活用する。</p> <p><留学生支援> ・留学生の国籍が5か国と増える。生活支援について、その準備を行うと共に、母校である日本語学校との情報交換を定期的実施。留学生の日頃の様子をお伝えする。 ・留学生日本語力向上については、日本語学校との情報交換も含め、より計画的に実施する。またポートフォリオを留学生自身で残し、振り返りができるようにする。 ・次の資料を活用し、学科などと連携して、留学生の就活をバックアップする：(独法)日本学生支援機構『外国人留学生のための就活ガイド2021』、同『日本での就職活動体験談』など</p>
<p>7. 管理・運営</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<p><修学支援新制度関係> ・修学支援新制度の高等教育機関として無事認定された。</p> <p><学籍関係> ・卒業生の成績・学生指導記録・出席簿等の整理を行った。</p> <p><防災関係> ・年2回の避難訓練を行い、防災意識を高めると共に、万が一の発災に備えている。(9月は地震発生、12月は火災発生を前提とした訓練)</p> <p><セキュリティー関係> ・セキュリティーソフトウェアのアカウントを更新した。 ・平成29年5月末から施行された改正個人情報保護法について教職員全員に周知・徹底し、遵守している。個人情報にあたるデータは全て暗号化して管理している。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p><修学支援新制度関係></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・修学支援新制度が開始されるため、適切かつ円滑な運用ができるよう関係者で密に連絡を取って学生指導していきたい。 <防災関係> ・J アラート、火災・地震を想定した危機管理マニュアルを整備しているが、今回大規模な影響を及ぼしている新型ウイルス等にも対応できるよう、内容を刷新する。 <セキュリティ関係> ・個人情報保護法の遵守について、具体的な手順の教示を行う等、引き続き徹底する。 ・セキュリティソフトウェア更新（継続）。 <環境整備等> ・教室及び共用部分について、日頃から整理整頓、清潔を保つ。
<p>8. 財務</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の編成及び執行に関する規定は、寄附行為及び経理規程に定めている。 ・予算の編成は、法人組織の経理部で予算枠を示して、予算単位で事業計画と予算案を策定している。 ・予算の執行にあたっては事業執行部署と財務経理部でチェックする体制を構築している。 ・法人寄附行為に基づく監査は規定に基づき行われ、その結果を理事会及び評議員会へ報告している。 ・法人において財務情報公開規程を整備し、所管部署を定め、開示請求に対応できる体制を整えている。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集において、定員まで学生数を増やすために、広報活動に一層の重点を置く。また、高等学校との接続のための単位連携講座、小中学生向け IT 教室の運営など、地元企業団体とも連携しながら実現する。 ・非 18 歳人口をターゲットとしたキャリア形成教育プログラムを企画・実施する。

以 上